

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	演劇概論Ⅱ	
科目基礎情報							
開設学科	声優・演劇科		コース名		開設期	後期	
対象年次	1年次		科目区分	選択	時間数	15時間	
単位数	1単位				授業形態	講義	
教科書/教材	毎回資料を配布する。副読として『ハムレット』（角川文庫）『ロミオとジュリエット』（筑摩書房）『桜の園・三人姉妹』（新潮文庫）を使用						
担当教員情報							
担当教員	宮下明日香				実務経験の有無・職種	有・演劇制作	
学習目的							
現在数多くの舞台が各国で上演されている。言語も異なれば、時代も場所も多様な設定がなされている。その舞台を創作する演劇界で働くためには、アカデミックとプラクティカルな両面を求められる。演劇がどのように成立し、現代にまで導かれているかを考察し、演劇の歴史の流れを認識する。学術的に演劇を理解することにより、実践へと結びつけることができる。							
到達目標							
東西問わず古典劇は現在も多く上演されている。前期は紀元前5世紀の古代ギリシャ時代から17世紀初頭までの西洋演劇史を理解する。時代背景や劇場構造の変化など作品を通して考察する。後期は引き続き西洋の近代演劇を分析する。時代の思想が変化する中で、戯曲の構造や思想の変化を説明する。また日本の演劇史も神話の時代から、江戸・明治・大正・昭和時代までの日本の演劇史を身につける。特に歌舞伎から新劇へとの移り変わりを学ぶことにより、現代の日本演劇の根底を理解することができる。							
教育方法等							
授業概要	各時代の東と西の演劇を学ぶ中で、授業で扱う作品のDVD鑑賞を取り入れていく。学術的に学びながら、実践的にどのように古典劇が現代で上演されているかを感じながら言及していく。						
注意点	この授業は、各作品を読みながら授業を展開していくため、授業で扱う作品を事前に読んでおくことが望ましい。私語、居眠りを禁止とする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	50%	基本的な授業を理解しているかによって評価する。				
	課題	25%	定期的に提出するレポートの内容によって評価する。				
	授業態度	25%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	イントロダクション		前期の復習				
2回	近代演劇（1）		イプセンの人物像、『人形の家』の読みと分析				
3回	舞台概論		ト書きを読み説く。舞台用語。				
4回	近代演劇（2）		チェーホフの人物像、『三人姉妹』の読みと分析				
5回	近代演劇（3）		『桜の園』の読みと分析				
6回	プレヒト		プレヒトの人物像、『三文オペラ』の読みと分析				
7回	日本の芸能のはじまり		古事記からの芸能				
8回	能楽		能と狂言の成り立ち				
9回	歌舞伎（1）		歌舞伎の始まりと成立				
10回	歌舞伎（2）		歌舞伎作者と東西の歌舞伎俳優				
11回	歌舞伎（3）		義太夫狂言三大名作				
12回	新劇（1）		新劇の始まり				
13回	新劇（2）		築地小劇場				
14回	新劇（3）		戦後の新劇				
15回	まとめ		総括と学習到達度の確認				